



新倉 啓介さん

東京都在住。小田急電鉄勤務。大学では経済地理学を専攻し、住みやすいまちづくりを研究していたとのこと。

開成町で生まれ育つ 子どもたちの 自慢になってほしい

クラウドファンディング型ふるさと納税「ロマンスカーNSEを後世に遺そうプロジェクト」達成の後押しをしてくださった東京在住の新倉啓介さん。

数あるふるさと納税の中で、なぜ出身地でも勤務地でもない開成町のプロジェクトに賛同してくださったのか、ロンちゃんに寄せたその想いを伺いました。

レジェンド的存在のロンちゃん
私は小田急沿線で生まれ育ち、子どもの頃から小田急線を見ることが大好きでした。特にロマンスカーは、見つけるとワクワクして、今でも胸が弾みます。ロンさんは、小田急のロマンスカーの中でも、展望席が初めて付いた車両で、ロマンスカーワークスのレジェンド的な存在です。「この魅力ある車両を遺したい」という想いが、まさにプロジェクトと重なりました。

将来小田急線に乗る子どもたちへ
開成町は県西エリアの小田急沿線の中でも、唯一、人口の増加が見られ、生きてくる子どもの数も多いことが統計から分かっています。



クラウドファンディング型ふるさと納税 ロマンスカーNSEを 後世に遺そうプロジェクト

平成30年度に、町のシンボルとして、ロンちゃんを後世に伝えるため、維持管理に必要な費用をクラウドファンディング型ふるさと納税を活用して募集しました。

その結果、全国各地、延べ112人の方から塗装費用2回分の約350万円の寄附を受けることができました。

昨年4月の1回目の塗り替えにより、ロンちゃんはピカピカになりました。



↑現役引退後、ロンちゃんとして町内外の方々に親しまれている。子どもたちも興味津々でロンちゃんとたわむれる。



INTERVIEW

町のシンボルとして末永く愛してほしい

ロマンスカー保存会は、会員4名で活動し、ロンちゃんの維持管理や公開日のお客様対応などを行っています。

公開日には、親子や鉄道ファンの方、NSEの元運転士さん(!)など様々な方が訪れます。ロマンスカーの写真や鉄道グッズを提供してくださる方もいて、皆さんのロンちゃん愛の大きさを実感しています。

ロマンスカー保存会会長
稻田 栄さん
(パレットガーデン)

車内公開中!

公開日：毎月第2・4日曜日
時 間：10:00～15:00
場 所：開成駅前第2公園
(吉田島4307-4)

※天候によって、公開を中止することがあります。公開状況については、街づくり推進課にお問い合わせください。
街づくり推進課☎84-0321

開成町の 特集 魅力は続くよ、どこまでも

開成町では当たり前にあるロンちゃんや小田急線が見えるいつもの風景。

実は、全国の鉄道ファンの方々から見ると

非常に魅力的で「羨ましい！」と言われているのをご存知ですか？

私たちが気付いていない、開成町の魅力は線路のように全国へ広がっています。

今月は、鉄道ファンから見た開成町の魅力を紹介します。

chapter1 NSE3100 ロンちゃんのいる風景



「ロマンスカーの礎」 となつたNSE

NSEは、箱根を訪れる観光客の急増への対応や東京オリンピックの開催を控え、特急の輸送力増強策として、1963年に登場しました。

今ではごく普通の前面展望席が小田急の特急車両として、初めて設置されたことから、「ロマンスカーの礎」と言われています。

△ 知ってる？

ロンちゃんのこと

「ロンちゃん」は、開成駅東口の開成駅前第二公園に展示されているロマンスカー3100形NSEのことです。ロンちゃんは、運用引退後の2001年に小田急電鉄(株)のご厚意により、町へやってきました。

実はロンちゃんは、現存する2編成(4両)のうちの一両で、貴重な車両なのです。鉄道ファンの間では、「希少価値が高い」と言われ、月2回の公開日には全国各地から鉄道ファンが訪れます。



日本でロンちゃんだけ?! 見放題!触り放題!

鉄道展などでNSEに会うことはできても、直接触れたり、運転席に座ったりできる機会はなかなかありません。でも、ロンちゃんはいつでも見れて、触れて、車両の下をのぞき込むこともできちゃいます!

また、月2回の公開日には、2階の運転席に座って、運転士気分が味わえます。



↑NSEの現役時の勇姿
(写真提供) 4ページに登場する樋口聰さん

